

○岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例

平成19年11月22日
広域連合条例第33号

(趣旨)

第1条 この条例は、高齢者の医療の確保に関する法律（昭和57年法律第80号。以下「法」という。）その他法令に定めがあるもののほか、岡山県後期高齢者医療広域連合（以下「広域連合」という。）が行う後期高齢者医療について必要な事項を定めるものとする。

(葬祭費)

第2条 被保険者が死亡したときは、その者の葬祭を行う者に対し、葬祭費として50,000円を支給する。

(保健事業)

第3条 広域連合は、被保険者の健康の保持増進のために必要な事業を行うものとする。

(保険料の賦課額)

第4条 法第104条第2項の規定により被保険者に対して課する保険料の賦課額は、被保険者につき算定した所得割額及び被保険者均等割額の合計額とする。ただし、法第99条第2項に規定する被保険者（以下「被扶養者であった被保険者」という。）に係る賦課額は、当該被扶養者であった被保険者につき算定した被保険者均等割額とする。

2 前項の賦課額に100円未満の端数があるときは、これを切り捨てる。

(保険料の所得割額)

第5条 前条の所得割額は、地方税法（昭和25年法律第226号）第314条の2第1項に規定する総所得金額及び山林所得金額並びに高齢者の医療の確保に関する法律施行令（平成19年政令第318号。以下「令」という。）第7条第1項第1号に規定する他の所得と区分して計算される所得の金額（以下この条において「他の所得と区分して計算される所得の金額」という。）の合計額から地方税法第314条の2第2項の規定による控除をした後の総所得金額及び山林所得金額並びに他の所得と区分して計算される所得の金額の合計額（以下「基礎控除後の総所得金額等」という。）に第1号に掲げる額を第2号に掲げる額で除して得た率（以下「所得割率」という。）を乗じて得た額とする。ただし、被保険者の所得の分布状況その他の事情に照らし、前条、この項本文及び次条の規定に基づき当該被保険者に係る保険料の賦課額を算定するものとしたならば、当該賦課額が、第10条に定める賦課額の限度額を上回ることが確実であると見込まれる場合には、高齢者の医療の確保に関する法律施行規則（平成19年厚生労働省令第129号。以下「施行規則」という。）第83条の規定により、基礎控除後の総所得金額等を補正するものとする。

(1) 第12条第3号に規定する所得割総額

(2) 被保険者（被扶養者であった被保険者を除く。）につき施行規則第85条で定めるところにより算定した当該特定期間（法第116条第2項第1号に規定する特定期間をいう。以下同じ。）における各年度の基礎控除後の総所得金額等の合計額の合計額

の見込額

2 前項の場合における地方税法第314条の2第1項に規定する総所得金額若しくは山林所得金額又は他の所得と区分して計算される所得の金額は、同法第313条第9項中雑損失の金額に係る部分の規定を適用しないものとして算定する。

3 第1項の所得割率に小数点以下第4位未満の端数があるときは、これを切り上げる。
(保険料の被保険者均等割額)

第6条 第4条の被保険者均等割額は、第12条第3号に規定する被保険者均等割総額を当該特定期間における各年度の被保険者の合計数の合計数の見込数で除して得た額とする。

2 前項の被保険者均等割額に100円未満の端数があるときは、これを切り上げる。
(所得割率及び被保険者均等割額の適用)

第7条 所得割率及び前条の規定により算定された被保険者均等割額は、広域連合の全区域にわたって均一とする。

(所得割率)

第8条 平成20年度及び平成21年度の所得割率は、100分の7.89とする。

2 平成22年度及び平成23年度の所得割率は、100分の8.55とする。

3 平成24年度及び平成25年度の所得割率は、100分の8.97とする。

4 平成26年度及び平成27年度の所得割率は、100分の9.15とする。

5 平成28年度及び平成29年度の所得割率は、100分の9.87とする。

6 平成30年度及び平成31年度の所得割率は、100分の9.17とする。

(被保険者均等割額)

第9条 平成20年度及び平成21年度の被保険者均等割額は、43,500円とする。

2 平成22年度及び平成23年度の被保険者均等割額は、44,000円とする。

3 平成24年度及び平成25年度の被保険者均等割額は、45,000円とする。

4 平成26年度及び平成27年度の被保険者均等割額は、46,300円とする。

5 平成28年度及び平成29年度の被保険者均等割額は、49,200円とする。

6 平成30年度及び平成31年度の被保険者均等割額は、46,600円とする。

(保険料の賦課限度額)

第10条 第4条の賦課額は、620,000円を超えることができない。

(賦課期日)

第11条 保険料の賦課期日は、4月1日とする。

(保険料の賦課総額)

第12条 特定期間における各年度の法第104条第2項の規定により被保険者に対して課する保険料の賦課額(第14条又は第15条の規定により所得割額又は被保険者均等割額を減額するものとした場合にあっては、その減額することとなる額を含む。)の合計額の合計額(以下「賦課総額」という。)は、次のとおりとする。

(1) 賦課総額は、特定期間における各年度のアに掲げる合計額の見込額からイに掲げる合計額の見込額を控除して得た額の合計額を予定保険料収納率で除して得た額とする。

ア 療養の給付に要する費用の額から当該給付に係る一部負担金に相当する額を控除した額、入院時食事療養費、入院時生活療養費、保険外併用療養費、療養費、訪問

看護療養費、特別療養費、移送費、高額療養費及び高額介護合算療養費の支給に要する費用の額、法第70条第3項（法第74条第10項、第75条第7項及び第76条第6項において準用する場合を含む。）及び第78条第7項の規定による審査及び支払に関する事務の執行に要する費用（法第70条第4項（法第74条第10項、第75条第7項、第76条第6項及び第78条第8項において準用する場合を含む。）の規定による委託に要する費用を含む。）の額、財政安定化基金拠出金及び法第117条第2項の規定による拠出金の納付に要する費用の額、法第116条第2項第1号に規定する基金事業借入金の償還に要する費用の額、保健事業に要する費用の額並びにその他の後期高齢者医療に要する費用（後期高齢者医療の事務の執行に要する費用を除く。）の額の合計額

イ 法第93条第1項及び第2項、第96条並びに第98条の規定による負担金、法第95条の規定による調整交付金、法第100条の規定による後期高齢者交付金、法第117条第1項の規定による交付金、法第102条及び第103条の規定による補助金その他後期高齢者医療に要する費用（後期高齢者医療の事務の執行に要する費用を除く。）のための収入の額の合計額

(2) 前号の予定保険料収納率は、特定期間における各年度に賦課すべき保険料の額の合計額の合計額に占めるこれらの年度において収納が見込まれる保険料の額の合計額の合計額の割合として施行規則第89条で定める基準に従い算定される率とする。

(3) 賦課総額は、所得割総額及び被保険者均等割総額の合計額とし、所得割総額は、被保険者均等割総額に、当該特定期間における各年度の被保険者の所得の平均額のすべての後期高齢者医療広域連合の被保険者の所得の平均額に対する割合の平均値を勘案して施行規則第90条に定める方法により算定した所得係数の見込値を乗じて得た額とする。

（賦課期日後において被保険者の資格取得又は喪失があった場合）

第13条 保険料の賦課期日後に被保険者の資格を取得した場合における当該被保険者に係る保険料の額の算定は、当該被保険者が資格を取得した日の属する月から月割をもって行う。

2 保険料の賦課期日後に被保険者の資格を喪失した場合における当該被保険者に係る保険料の額の算定は、当該被保険者が資格を喪失した日の属する月の前月まで月割をもって行う。

（所得の少ない者に係る保険料の減額）

第14条 所得の少ない被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、次の各号に掲げる被保険者の区分に応じ、当該被保険者に係る被保険者均等割額から当該各号に定める額を控除して得た額とする。

(1) 当該年度の保険料の賦課期日（賦課期日後に被保険者の資格を取得した場合には当該資格を取得した日とする。以下この条において同じ。）現在における、被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者につき算定した地方税法第314条の2第1項に規定する総所得金額及び山林所得金額並びに他の所得と区分して計算される所得の金額（令第18条第4項第1号に規定する他の所得と区分して計算される所得の金額をいう。以下この条において同じ。）の合計額の

当該世帯における合算額が地方税法第314条の2第2項に規定する金額を超えない場合において、当該世帯に属する被保険者 当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額に10分の7を乗じて得た額

(2) 当該年度の保険料の賦課期日現在における、前号の規定による額を控除されない被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者につき算定した地方税法第314条の2第1項に規定する総所得金額及び山林所得金額並びに他の所得と区分して計算される所得の金額の合計額の当該世帯における合算額が同条第2項に規定する金額に当該世帯に属する被保険者の数に280,000円を乗じて得た金額を加算した金額を超えない場合において、当該世帯に属する被保険者 当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額に10分の5を乗じて得た額

(3) 当該年度の保険料の賦課期日現在における、前2号の規定による額を控除されない被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者につき算定した地方税法第314条の2第1項に規定する総所得金額及び山林所得金額並びに他の所得と区分して計算される所得の金額の合計額の当該世帯における合算額が同条第2項に規定する金額に当該世帯に属する被保険者の数に510,000円を乗じて得た金額を加算した金額を超えない場合において、当該世帯に属する被保険者 当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額に10分の2を乗じて得た額

(4) 前各号の場合における地方税法第314条の2第1項に規定する総所得金額若しくは山林所得金額又は他の所得と区分して計算される所得の金額は、同法第313条第3項から第5項までの規定を適用せず、所得税法（昭和40年法律第33号）第57条第1項、第3項又は第4項の規定の例によらないものとして計算する。

（被扶養者であった被保険者に係る保険料の減額）

第15条 被扶養者であった被保険者（前条の規定に基づき、被保険者均等割額から同条第1号又は第2号の規定による額を控除されない被保険者に限る。）について、法第52条各号のいずれかに該当するに至った日の属する月以後2年を経過する月までの間に限り、当該被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額から当該被保険者均等割額に10分の5を乗じて得た額を控除した額とする。

（保険料の額の通知）

第16条 保険料の額が定まったときは、広域連合長は、速やかに、これを被保険者に通知しなければならない。その額に変更があったときも、同様とする。

（徴収猶予）

第17条 広域連合長は、被保険者及び連帯納付義務者（法第108条第2項及び第3項の規定により保険料を連帯して納付する義務を負う者をいう。以下この条及び次条において同じ。）が、次の各号のいずれかに該当することによりその納付すべき保険料の全部又は一部を一時に納付することができないと認める場合においては、その申請によって、その納付することができないと認められる金額を限度として、6箇月以内の期間を限って、その徴収を猶予することができる。

(1) 被保険者又はその属する世帯の世帯主が、震災、風水害、火災その他これらに類する災害により、住宅、家財又はその他の財産について著しい損害を受けたこと。

- (2) 被保険者の属する世帯の世帯主が死亡したこと、又はその者が心身に重大な障害を受け、若しくは長期入院したことにより、その者の収入が著しく減少したこと。
- (3) 被保険者の属する世帯の世帯主の収入が、事業又は業務の休廃止、事業における著しい損失、失業等により著しく減少したこと。
- (4) 前3号に類する事由があること。

2 前項の規定により保険料の徴収猶予を受けようとする被保険者又は連帯納付義務者は、次に掲げる事項を記載した申請書に徴収猶予を必要とする理由を証明すべき書類を添付して、広域連合長に提出しなければならない。

- (1) 被保険者及びその属する世帯の世帯主の氏名及び住所
- (2) 徴収猶予を受けようとする保険料の額及び納期限又は当該保険料の徴収に係る特別徴収対象年金給付の支払に係る月
- (3) 徴収猶予を必要とする理由

3 第1項の規定により保険料の徴収猶予を受けた者は、その理由が消滅した場合には、直ちにその旨を広域連合長に申告しなければならない。

(保険料の減免)

第18条 広域連合長は、次の各号のいずれかに該当する被保険者又は連帯納付義務者のうち必要があると認められるものに対し、保険料を減免する。

- (1) 被保険者又はその属する世帯の世帯主が、震災、風水害、火災その他これらに類する災害により、住宅、家財又はその他の財産について著しい損害を受けたこと。
- (2) 被保険者の属する世帯の世帯主が死亡したこと、又はその者が心身に重大な障害を受け、若しくは長期入院したことにより、その者の収入が著しく減少したこと。
- (3) 被保険者の属する世帯の世帯主の収入が、事業又は業務の休廃止、事業における著しい損失、失業等により著しく減少したこと。
- (4) 前3号に類する事由があること。

2 前項の規定により保険料の減免を受けようとする被保険者又は連帯納付義務者は、普通徴収の方法により保険料を徴収されている者については納期限前7日までに、特別徴収の方法により保険料を徴収されている者については特別徴収対象年金給付の直近の支払日前7日までに、次に掲げる事項を記載した申請書に減免を受けようとする理由を証明する書類を添付して、広域連合長に提出しなければならない。ただし、広域連合長が特に必要と認める場合は、この限りではない。

- (1) 被保険者及びその属する世帯の世帯主の氏名及び住所
- (2) 減免を受けようとする保険料の額及び納期限又は当該保険料の徴収に係る特別徴収対象年金給付の支払に係る月
- (3) 減免を必要とする理由

3 第1項の規定により保険料の減免を受けた者は、その理由が消滅した場合には、直ちにその旨を広域連合長に申告しなければならない。

(保険料に関する申告)

第19条 被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者は、6月20日まで（保険料の賦課期日後に被保険者の資格を取得した者は、当該資格を取得した日から15日以内）に、当該被保険者及びその属する世帯の世帯主そ

の他その世帯に属する被保険者の所得その他広域連合長が必要と認める事項を記載した申告書を広域連合長に提出しなければならない。ただし、当該被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者の前年中の所得につき地方税法第317条の2第1項の申告書が市町村長に提出されている場合又は当該被保険者、その属する世帯の世帯主及びその属する世帯の他の世帯員である被保険者が同項ただし書に規定する者（同項ただし書の条例で定めるものを除く。）である場合においては、この限りではない。

（保険料の納付）

第20条 保険料は、市町村（広域連合を組織する市町村をいう。以下この条及び次条において同じ。）が当該市町村の区域内に住所を有する被保険者及び法第55条又は法第55条の2の規定の適用を受ける被保険者から徴収し、その徴収した額を広域連合に納付するものとする。

（延滞金の納付）

第21条 延滞金は、前条の規定に基づき被保険者から保険料を徴収する市町村が当該被保険者から徴収し、その徴収した額を広域連合に納付するものとする。

（罰則）

第22条 広域連合は、被保険者が法第54条第1項の規定による届出をしないとき（同条第2項の規定により当該被保険者の属する世帯の世帯主から届出がなされたときを除く。）又は虚偽の届出をしたときは、100,000円以下の過料を科する。

第23条 広域連合は、法第54条第4項又は第5項の規定により被保険者証の返還を求められてこれに応じない者に対し、100,000円以下の過料を科する。

第24条 広域連合は、被保険者、被保険者の配偶者若しくは被保険者の属する世帯の世帯主その他その世帯に属する者又はこれらであった者が正当な理由がなく法第137条第1項の規定により文書その他の物件の提出若しくは提示を命ぜられてこれに従わず、又は同項の規定による当該職員の質問に対して答弁せず、若しくは虚偽の答弁をしたときは、100,000円以下の過料を科する。

第25条 広域連合は、偽りその他不正の行為により徴収猶予した一部負担金に係る徴収金その他法第4章の規定による徴収金（広域連合が徴収するものに限る。）の徴収を免れた者に対し、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料を科する。

第26条 第22条から前条までの過料の額は、情状により、広域連合長が定める。

2 第22条から前条までの過料を徴収する場合において発する納入通知書に指定すべき納期限は、その発布の日から起算して10日以上を経過した日とする。

（委任）

第27条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、広域連合長が別に定める。

附 則

（施行期日）

第1条 この条例は、平成20年4月1日から施行する。

（平成20年度から平成25年度までの間における保険料の算定の特例）

第2条 平成20年度から平成25年度までの間における保険料の算定について、第7条

の規定を適用する場合においては、同条中「全区域」とあるのは「全区域（附則第5条に規定する特定市町村の区域を除く。）」と読み替えるものとし、第12条第1項第1号イの規定を適用する場合においては、同号イ中「収入」とあるのは「収入（法附則第14条第2項の規定による繰入金を除く。）」と読み替えるものとする。

（公的年金等所得に係る保険料の減額賦課の特例）

第3条 当分の間、被保険者、その属する世帯の世帯主又はその属する世帯の他の世帯員である被保険者であって前年中に所得税法第35条第3項に規定する公的年金等に係る所得について同条第4項に規定する公的年金等控除額（年齢65歳以上である者に係るものに限る。）の控除を受けたものについては、第14条第1号から第3号までの規定中「総所得金額」とあるのは「総所得金額（所得税法第35条第3項に規定する公的年金等に係る所得については、同条第2項第1号の規定によって計算した金額から150,000円を控除した金額）」と、第14条第2号及び第3号中「同条第2項」とあるのは「地方税法第314条の2第2項」とする。

（法附則第14条第1項の市町村に係る保険料の賦課の特例）

第4条 法附則第14条第1項に規定する条例で定める期間は6年とする。

第5条 法附則第14条第1項に規定する厚生労働大臣が定める基準に該当する市町村（以下この条において「特定市町村」という。）の区域内に住所を有する被保険者（以下この条において「特定市町村区域内被保険者」という。）に対して課する保険料の賦課額は、第4条から第10条までの規定にかかわらず、次のとおりとする。

- (1) 当該保険料の賦課額は、特定市町村区域内被保険者につき算定した所得割額及び被保険者均等割額の合計額とする。ただし、被扶養者であった被保険者に係る賦課額は、当該被扶養者であった被保険者につき算定した被保険者均等割額とする。
- (2) 前号の所得割額は、基礎控除後の総所得金額等に特定市町村所得割率を乗じて得た額とする。
- (3) 前号の特定市町村所得割率は、地域の実情その他の事情を勘案して施行規則附則第22条で定める方法により算定した率とする。ただし、所得割率に、当該特定市町村に係る給付費比率に1から給付費比率を控除した率に経過的調整率を乗じて得た率を加えた率を乗じて得た率を下回らないものとする。
- (4) 前号の給付費比率は、被保険者1人当たりの法第93条第1項に規定する療養の給付等に要する費用の額（以下この号において「療養の給付等に要する費用の額」という。）に対する特定市町村区域内被保険者1人当たりの療養の給付等に要する費用の額の割合に相当するものとして法附則第14条第1項に規定する厚生労働大臣が定める基準との整合性に配慮して施行規則附則第23条で定めるところにより算定した率とする。
- (5) 第3号の経過的調整率は、次のアからウまでに掲げる年度の区分に応じ、当該アからウまでに定める率とする。

ア	平成20年度及び平成21年度	6分の3
イ	平成22年度及び平成23年度	6分の4
ウ	平成24年度及び平成25年度	6分の5
- (6) 第1号の被保険者均等割額は、地域の実情その他の事情を勘案して施行規則附則第

24条で定める方法により算定した額とする。ただし、第4条の被保険者均等割額に、当該特定市町村に係る第3号の給付費比率に1から当該給付費比率を控除した率に前号アからウまでに掲げる区分に応じ、同号アからウまでに定める第3号の経過的調整率を乗じて得た率を加えた率を乗じて得た額を下回らないものとする。

(7) 第1号の賦課額は、550,000円を超えることができない。

2 前項の特定市町村は、英田郡西栗倉村とし、平成20年度及び平成21年度の当該特定市町村区域内被保険者に対して課する保険料の所得割率及び被保険者均等割額は、次の表のとおりとする。

所得割率	100分の6.83
被保険者均等割額	37,700円

3 第1項の特定市町村は、英田郡西栗倉村とし、平成22年度及び平成23年度の当該特定市町村区域内被保険者に対して課する保険料の所得割率及び被保険者均等割額は、次の表のとおりとする。

所得割率	100分の7.78
被保険者均等割額	40,100円

4 第1項の特定市町村は、英田郡西栗倉村とし、平成24年度及び平成25年度の当該特定市町村区域内被保険者に対して課する保険料の所得割率及び被保険者均等割額は、次の表のとおりとする。

所得割率	100分の8.57
被保険者均等割額	43,000円

(平成20年度及び平成21年度における保険料の賦課総額の算定の特例)

第6条 平成20年度及び平成21年度における保険料の賦課総額の算定について、第12条の規定を適用する場合においては、同条中「第14条又は第15条」とあるのは「第14条若しくは第15条又は附則第7条、附則第8条、附則第9条、附則第10条、附則第11条、附則第12条若しくは附則第16条」と読み替えるものとする。

(平成20年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の賦課の特例)

第7条 平成20年度において、被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、第14条及び第15条の規定にかかわらず、当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額から当該被保険者均等割額に20分の19を乗じて得た額を控除した額とする。

2 平成20年度において、保険料の賦課期日後に被保険者の資格を取得又は喪失した被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、第14条及び第15条の規定にかかわらず、前項の規定により算定した被保険者均等割額から当該被保険者均等割額を6で除して得た額に6から平成20年10月から平成21年3月までの間において被保険者資格を有する月数（当該被扶養者であった被保険者が資格を取得した日の属する月を含み、当該被扶養者であった被保険者が資格を喪失した日の属する月を除く。）を控除した数を乗じて得た額を控除した額とする。ただし、平成20年10月31日までの間に資格を喪失した被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、0円とする。

(平成20年度における所得の少ない者に係る所得割額の減額の特例)

第8条 平成20年度における保険料の算定の基礎に用いる基礎控除後の総所得金額等が580,000円を超えない被保険者に対して賦課する所得割額は、当該被保険者につき算定した所得割額から当該所得割額に2分の1を乗じて得た額を控除した額とする。

(平成20年度における所得の少ない者に係る被保険者均等割額の減額の特例)

第9条 平成20年度において、第14条第1号に規定する被保険者(被扶養者であった被保険者を除く。)に対して賦課する被保険者均等割額は、同号の規定により算定した被保険者均等割額に6分の1を乗じて得た額(その額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた額)に3を乗じて得た額とする。

(平成20年度における所得の少ない者に係る保険料の賦課額の特例)

第10条 平成20年度において、第14条第1号に規定する被保険者(被扶養者であった被保険者を除く。)に対する前2条の規定により算定した保険料の賦課額(ただし、賦課期日後において被保険者の資格取得又は喪失があった場合は、当該賦課額について第13条の規定により月割をもって算定した額とする。)から、当該被保険者の保険料につき、特別徴収の方法により徴収するとしたならば、令附則第12条第3項の規定に基づき徴収するものとされる支払回数割保険料額の見込額に3を乗じて得た額(ただし、賦課期日後において被保険者の資格取得又は喪失があった場合は、当該額について第13条の規定に準じて月割をもって算定した額とする。)を減じて得た額がある場合で、当該額が500円未満である場合については、これを免除する。

2 前項の支払回数割保険料額の見込額は、前2条の規定を適用しないものとして算定した額とする。

(平成21年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の賦課の特例)

第11条 平成21年度において、被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、第14条及び第15条の規定にかかわらず、当該年度分の保険料に係る被保険者均等割額から当該被保険者均等割額に10分の9を乗じて得た額を控除した額とする。

2 平成21年度において、保険料の賦課期日後に被保険者の資格を取得又は喪失した被扶養者であった被保険者に対して賦課する被保険者均等割額は、第14条及び第15条の規定にかかわらず、前項の規定により算定した被保険者均等割額について第13条の規定により月割をもって算定した額とする。

(平成21年度における所得の少ない者に係る保険料の賦課額の特例)

第12条 平成21年度における所得の少ない者に係る保険料の減額について第14条第1号の規定を適用する場合においては、同号中「10分の7」とあるのは、「20分の17」とする。

2 前項の規定は、平成21年度における所得の少ない者に係る保険料の減額について第14条第1号の2の規定を適用する場合においては、適用しない。

(平成22年度から平成28年度までの各年度における保険料の賦課総額の算定の特例)

第13条 平成22年度から平成28年度までの各年度における保険料の賦課総額の算定について第12条の規定を適用する場合においては、同条中「第14条又は第15条」とあるのは、「第14条若しくは第15条又は附則第14条から附則第16条まで」と

する。

(平成22年度から平成28年度までの各年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の賦課の特例)

第14条 平成22年度から平成28年度までの各年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の減額について第15条の規定を適用する場合には、同条中「被保険者(前条の規定に基づき、被保険者均等割額から同条第1号、第1号の2又は第2号の規定による額を控除されない被保険者に限る。)」について、法第52条各号のいずれかに該当するに至った日の属する月以後2年を経過する月までの間に限り、当該被扶養者であった被保険者」とあるのは「被保険者」と、「10分の5」とあるのは「10分の9」とする。

(平成22年度から平成30年度までの各年度における所得の少ない者に係る保険料の賦課額の特例)

第15条 平成22年度から平成30年度までの各年度における所得の少ない者に係る保険料の減額について第14条第1号の規定を適用する場合には、当分の間、同号中「10分の7」とあるのは、「20分の17」とする。

2 前項の規定は、平成22年度から平成30年度までの各年度における所得の少ない者に係る保険料の減額について第14条第1号の2の規定を適用する場合には、適用しない。

(平成21年度から平成28年度までの各年度における所得の少ない者に係る所得割額の減額の特例)

第16条 平成21年度から平成28年度までの各年度における基礎控除後の総所得金額等が580,000円を超えない被保険者に対して賦課する所得割額は、当該被保険者につき算定した所得割額から当該所得割額に10分の5を乗じて得た額を控除して得た額とする。

(平成29年度における保険料の賦課総額の算定の特例)

第17条 平成29年度における保険料の賦課総額の算定について第12条の規定を適用する場合には、同条中「第14条又は第15条」とあるのは、「第14条若しくは第15条又は附則第15条、附則第18条若しくは附則第19条」とする。

(平成29年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の賦課の特例)

第18条 平成29年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の減額について第15条の規定を適用する場合には、同条中「被保険者(前条の規定に基づき、被保険者均等割額から同条第1号、第1号の2又は第2号の規定による額を控除されない被保険者に限る。)」について、法第52条各号のいずれかに該当するに至った日の属する月以後2年を経過する月までの間に限り、当該被扶養者であった被保険者」とあるのは「被保険者(前条の規定に基づき、被保険者均等割額から同条第1号又は第1号の2の規定による額を控除されない被保険者に限る。)」と、「10分の5」とあるのは「10分の7」とする。

(平成29年度における所得の少ない者に係る所得割額の減額の特例)

第19条 平成29年度における基礎控除後の総所得金額等が580,000円を超えない被保険者に対して賦課する所得割額は、当該被保険者につき算定した所得割額から当

該所得割額に10分の2を乗じて得た額を控除して得た額とする。

(平成30年度及び平成31年度における保険料の賦課総額の算定の特例)

第20条 平成30年度及び平成31年度における保険料の賦課総額の算定について第12条の規定を適用する場合においては、同条中「第14条又は第15条」とあるのは、「平成30年度においては第14条若しくは第15条又は附則第15条若しくは附則第21条、平成31年度においては第14条若しくは第15条又は附則第22条」とし、「あつては、」とあるのは「あつては、それぞれ」とする。

(平成30年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の賦課の特例)

第21条 平成30年度における被扶養者であった被保険者に係る保険料の減額について第15条の規定を適用する場合においては、同条中「限る。)」について、法第52条各号のいずれかに該当するに至った日の属する月以後2年を経過する月までの間に限り、当該被扶養者であった被保険者」とあるのは、「限る。)」とする。

(平成31年度における所得の少ない者に係る保険料の賦課額の特例)

第22条 平成31年度において第14条第1号の規定が適用される被保険者であつて、賦課期日に、当該被保険者及びその属する世帯の他の被保険者が令第15条第1項第6号に規定する各種所得の金額及び他の所得と区分して計算される所得の金額がないものについての第14条第1号の規定の適用については、同号中「10分の7」とあるのは、「10分の8」とする。

2 平成31年度において第14条第1号の規定が適用される被保険者であつて、前項の規定が適用されないものについての第14条第1号の規定の適用については、同号中「10分の7」とあるのは、「20分の17」とする。

(平成32年度における保険料の賦課総額の算定の特例)

第23条 平成32年度における保険料の賦課総額の算定について第12条の規定を適用する場合においては、同条中「第14条又は第15条」とあるのは、「平成32年度においては第14条若しくは第15条又は附則第24条」とする。

(平成32年度における所得の少ない者に係る保険料の賦課額の特例)

第24条 平成32年度において第14条第1号の規定が適用される被保険者(賦課期日に、当該被保険者及びその属する世帯の他の被保険者が令第15条第1項第6号に規定する各種所得の金額及び他の所得と区分して計算される所得の金額がない被保険者を除く。)についての第14条第1号の規定の適用については、同号中「10分の7」とあるのは、「40分の31」とする。

附 則 (平成20年7月29日広域連合条例第4号)

この条例は、平成20年8月1日から施行し、改正後の岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の規定は、平成20年4月1日から適用する。

附 則 (平成21年2月3日広域連合条例第4号)

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年5月26日広域連合条例第7号)

この条例は、平成21年7月1日から施行し、改正後の岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の規定は、平成21年4月1日から適用する。

附 則（平成 22 年 3 月 29 日広域連合条例第 4 号）

この条例は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 23 年 2 月 4 日広域連合条例第 1 号）

この条例は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 2 月 14 日広域連合条例第 1 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第 10 条及び附則第 5 条第 1 項第 7 号の規定は、平成 24 年度以降の賦課額について適用し、平成 23 年度分までの賦課額については、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 2 月 14 日広域連合条例第 2 号）

この条例は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 2 月 24 日広域連合条例第 2 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第 10 条並びに第 14 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の規定は、平成 26 年度以後の年度分の保険料について適用し、平成 25 年度分までの保険料については、なお従前の例による。

附 則（平成 27 年 3 月 27 日広域連合条例第 5 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第 14 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の規定は、平成 27 年度以後の年度分の保険料について適用し、平成 26 年度分までの保険料については、なお従前の例による。

附 則（平成 28 年 2 月 22 日広域連合条例第 1 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第 10 条並びに第 14 条第 1 項第 2 号及び第 3 号の規定は、平成 28 年度以後の年度分の保険料について適用し、平成 27 年度分までの保険料については、なお従前の例による。

附 則（平成 29 年 2 月 27 日広域連合条例第 1 号）

（施行期日）

1 この条例は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第 14 条第 2 号及び第 3 号の規定は、平成 29 年度以後の年度分の保険料について適用し、平成 28 年度分までの保険料については、なお従前の例

による。

附 則（平成30年2月22日広域連合条例第1号）

（施行期日）

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第10条並びに第14条第2号及び第3号の規定は、平成30年度以後の年度分の保険料について適用し、平成29年度分までの保険料については、なお従前の例による。

附 則（平成30年8月8日広域連合条例第7号）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行し、改正後の岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例の規定は、平成30年8月1日から適用する。

附 則（平成30年12月18日広域連合条例第8号）

（施行期日）

1 この条例は、公布の日から施行し、この条例による改正後の岡山県後期高齢者医療広域連合後期高齢者医療に関する条例第18条第2項の規定は、平成30年7月5日から適用する。

附 則（平成31年2月19日広域連合条例第1号）

（施行期日）

1 この条例は、平成31年4月1日から施行する。

（経過措置）

2 この条例による改正後の第14条及び第15条の規定は、平成31年度以後の年度分の保険料について適用し、平成30年度分までの保険料については、なお従前の例による。